

第四話

朱雀帝御即位事

『前太平記』上 巻第一 二十四頁より

六十一代目の天皇、朱雀天皇と申し上げます方は醍醐天皇の第十一男で、母君は皇后・藤原穩子様、昭宣公のご息女である。すでに過去のこととなった延長三年に立太子の節会(巻)が行はれ、同じく延長八年十一月二十二日、天子の位に即位なさる。その時の御年はまだ八歳の幼帝であらせられるので、左大臣の藤原忠平公が摂政として御支えするのは、諸官の頭（として）帝道の当然の流れである。翌年年号

諸官の棟梁、帝道の塩梅たり。

が改元されて、承平に移される。承平元年六月八日、急に空が暗くなり、大雪が降って、冷たい風が荒々しく吹いて、山川江河の水の流れもすぐさま凍り付いて、まるで晩冬の風景のようだった。このような天災はどのようなわけであるのだろうか。と、諸人の中に不審に思わぬ者はなかったが、案の定、七月十九日、宇多法王が六十五歳の御年にして崩御なさる。本当にこの方の御治世の時は、四海も穏やかで、素晴らしい賢明な君主でいらっしゃったが、今年お亡くなりになったところ、天帝もこのことを悲しみ、前もってその前兆をお示しになったと諸人は考えを巡らせた。その時は諒闇(式)であるために、公文書をお出しできず、承平二年十月、河原の

御祓いがあって、十一月六日、大嘗会 (参) を果たし、執り行われて、伊勢・賀茂・岩清水、その他の諸社に奉幣使を使わされ、神宝を御納めになる。

注釈

※壺・節会……朝廷で、節の日や節分などの公事のある日に、天皇が宮中に群臣を集めて酒食をふるまう行事。臨時で行われる場合には、大嘗会・立后・立太子・任大臣・相撲などで行われる。

※式・諒闇……天皇が父母の喪に服す期間。満一年とされる。

※参・大嘗会……天皇即位の儀式後、はじめて行う新嘗祭（その年の新穀を神に供えて祭る神事）を大嘗祭といい、それを節会としていう語。陰暦の十一月の卯の日に行われた。

感想・指摘・叱咤激励、随時受け付けております。Twitter やメール等でご連絡ください m(__)m

公開：2015/5/23

改訂：2021/3
海熊童子